

平成十九年度 秋の研修旅行報告II

清水磨崖仏群・

特攻平和会館を訪ねて

吉田 勝 重

(会員 佐伯市女島)

一、清水磨崖仏群

はじめの研修地は、清水磨崖仏群である。この石仏群は県の指定文化財で鎌倉時代から明治時代までの約四百年間の石仏がきちんと保存された珍しい物である。



清水川（万ノ瀬川）右岸の高さ二十m、長さ四百mの屏風のように切り立った溶結凝灰岩（入戸火砕流）の岸壁に、五輪塔や宝篋印塔、梵字、仏像などが彫ら

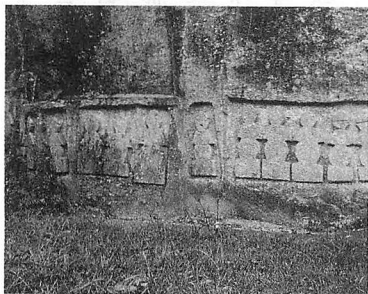
れている。

月輪大梵字は英彦山のお坊さんが、三大宝篋印塔は平重景・家幸という人たちが、明治時代のもは吉田知山というお坊さんが彫刻したとわかつている。

①室町時代の磨崖仏群

室町時代の磨崖仏群は、ほとんどが五輪塔だが板碑や仏像もある。小型で立体的な特徴が見られる。

供養塔は、自分の供養を死ぬ前に自分ですませておくという「逆修思想」の影響を受けており、並んで彫られたものは夫婦のものと思われる。全体で百十一体ある。一部に名前の彫られたものもあった。



## ②名前の彫られている五輪塔

室町時代の磨崖仏群の中に名前の彫られたものがある。書かれている文字は左より、「道国禪門」「妙園禪尼」「了禪門」「妙苾禪尼」と読める。

禪門は仏門に入った男子、禪尼は仏門に入った女子である。四体の石塔が男女二体ずつということから、夫婦のものであると考えられている。

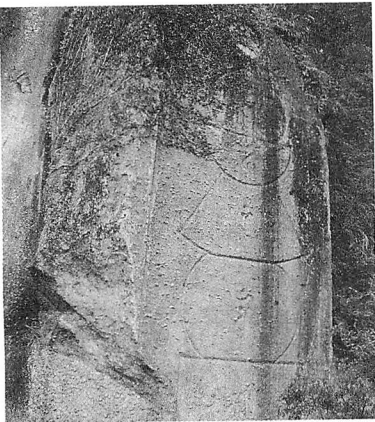


室町時代の磨崖石塔の前には、古い清水磨崖仏群記念碑と書かれた碑が残されていた。碑には「清水磨崖仏群は鎌倉中期から明治中期まで五百五十年にわたり信仰の対象とされた各種の仏塔が四百メートルの岸壁面をうずめ、他の磨崖遺跡が仏像を主とするのに対し、仏塔梵字が主で日本文

化史上特異な遺跡である。歴史的には鎌倉中期、末期、室町および明治時代の加刻が認められ、梵字は信仰内容

を知る貴重な資料で、月輪大梵字は書風秀麗、日本人の手になるものでは最高のできばえである。なお板碑に見る書風は六朝風の筆致で書道史上からも貴重なものであり、大五輪塔は日本最大で陀羅尼の墨書が認められ、宝篋印塔はこの地独特の形式である。刻銘、墨書銘は時代、作者、制作意図を明示し、九州全土に散在する磨崖仏群の年代その他重要事項を律するにたる学術上貴重なものである。梵字研究家斉藤彦松先生により調査顕彰され、かつ保存者の一部寄贈を受け遺跡を後世に残すためここに碑を建てる。」と書かれている。

## ③平安時代後期の磨崖仏「大五輪塔」



この五輪塔は清水磨崖仏群の中で最も古い平安時代後期から鎌倉時代前期のものとして推定されている。

高さは約十二メートル、幅約

五メートルに及ぶ。

五輪塔は下から地輪、水輪、火輪、風輪、空輪とされ仏教の五大思想による世界観を表し、各輪にはア、バン、ラン、カン、キャンと発音する梵字が書かれている。

この五輪塔の周りには十センチ四方のマス目があり、その一つ一つに墨で書かれたお経と思われる五千字以上の梵字が書かれていたと考えられている。

五輪塔を囲む五角形のものは板碑と呼ばれる塔で、一番上の丸の中には大日如来像が描かれている。

#### ④鎌倉時代の磨崖仏「月輪大梵字」

この月輪大梵字は、鎌倉時代の弘長四年、英彦山のお坊さんが彫刻したと江戸時代の古い記録に書かれている。

三つある大梵字は刷毛書き薬研彫りという方法で彫刻されており、美術工芸的な価値も高いと言われている。

文字も全部で五つあったそうであるが、現在残っている梵



字は「カーン」「ケイ」「バイ」の三文字である。

無くなっている文字は「ラー」と「バイ」で不動明

王、計都星（慧星）、薬師如来、羅刹星（日食星、月食星）、毘沙門天の意味があるようだ。

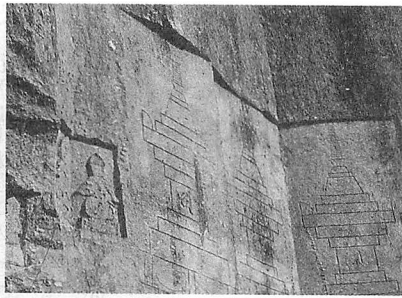
仏の力（不動明王、薬師如来、毘沙門天）で、不吉な事の前触れと考えられていた慧星、日食、月食を封じ込めようとしたのではないかと言われている。

#### ⑤鎌倉時代の三大宝篋印塔

宝篋印塔は宝篋印というお経を納めていたものであったが、鎌倉時代から亡くなった人の供養に建てるようになった。

この三体の線彫りの宝篋印塔は永仁四年三月十三日に彫刻されたもので「清浄」とよばれる女性の四十九日の法要のため、平重景によ

り作られたと碑面に墨書と彫刻により書かれている。



## ⑥明治時代の磨崖仏群



明治時代の磨崖仏群は清水磨崖仏群の最も新しいもので旅の僧、吉田知山という人の作品である。

明治二十八年に宝篋印塔、十一面観音像、阿弥陀如来像の三体が彫られている。吉田知山と言う僧は、その後大隅半島の大隅町（現在の曾於市）月野にも磨崖仏群を残している。

## 二、知覧特攻平和会館

二つめの研修地は「特攻基地のあった町」として有名な知覧町である。現在は南九州市と呼ばれている。

この知覧は島津藩の外城の一つである。

八世紀各地に荘園が出来た頃、この知覧は村岡平氏の一族である知覧氏が治めていた。十一世紀前半、島津氏が治めていた島津荘が、太宰大監である平季基により関白

藤原頼道に寄進された時、知覧氏もそれにならい藤原氏に寄進庇護をうけた。鎌倉期には平氏一族の郡司と島津氏支流の地頭知覧氏の支配下にあった。

南北朝以降、郡司・地頭の力が衰えると島津氏四代、忠光が知覧城に入り佐多島津氏を名乗り、その後一時、種子島の私領になったが再び佐多島津氏の領土として明治を迎えた。

この知覧町には国指定遺跡である知覧城址と亀甲城址が、また十八代島津久峯の整備した武家屋敷群が残されている。平成十九年十二月一日より、隣の穎娃町、川辺町と合併して南九州市としてスタートした。人口は四万二千余人、面積三百五十八平方キロメートルの中規模の市で、産物としてサツマイモ知覧紅や知覧茶、知覧傘提灯などがある。

## ①知覧特攻平和会館

この知覧特攻平和会館は太平洋戦争末期、沖縄決戦において特攻という人類史上類のない作戦で突撃を敢行した特攻隊員の遺品や資料を展示した所である。

## 知覧特攻平和会館



昭和十七年、大刀洗陸軍飛行学校知覧分教場として発足し、昭和二十年、沖繩戦特攻基地として多くの少年飛行兵学徒出身の特別操縦見習い士官が特攻に飛び立って行った地である。

この特攻平和会館に祀られている慰霊者数は千三十六柱にのぼり、戦没出身地別では東京の八十六柱をトップに全国各地に分布している。大分県は二十五柱。韓国籍の方も十一名います。戦没者は各地の航空基地よりこの知覧に集まり出撃していた。九州における出撃航空基地は大刀洗、荒田、万世、菊池、健軍、新田原、都城西、都城東、鹿屋、知覧、喜界島、徳之島、沖繩、石垣、宮古となっております、九州以外では山口県の小月、台湾の桃園、宜蘭、台中、八塊、花蓮港、竜潭の各基地であった。

平和会館までの道の左右には全国各地から寄進された石灯籠がずらりと並んでいる。

平和公園までの七百メートルの間に、戦没者特攻隊員と同じ千三十六基が浄財で建てられた。現在もまだ数多くの方から寄進され続けている。

近くには大刀洗陸軍飛行学校知覧教育隊の記念碑や「特攻兵士とこしえに」の像、「母の像やすらかに」の像等が建てられていた。



「母の像やすらかに」の像

母の像は昭和六十一年、熊本県の前田将氏が「とこしえに母と共にやすらかに」の願いを込めて作られた像で「特攻兵士と



こしえに」の像の前にあり  
制作者は富山県の石黒孫七  
氏である。

特攻平和会館には、祀ら  
れている人々の遺品や遺書、  
絶筆、手紙、写真が展示さ  
れており、中央の一角では  
戦闘機「飛燕」を囲んで修  
学旅行生に篤く語りかけて  
いる館員もいた。

この片隅に特攻隊員との交流で一躍話題の人となった  
鳥浜トメさんの富屋食堂の記事が載せられていた。

## ②富屋食堂と特攻隊員

鳥浜トメさんは、明治三十五年鹿児島県坊津町に生ま  
れている。昭和四年知覧の商店街に「富屋食堂」を開き、  
昭和十七年軍の指定食堂になった。この頃から特別操縦  
見習い仕官等との交流が始まり、昭和二十年には特別攻  
撃隊員との交流が繁茂となった。

この特攻隊員との交流の姿は映画「ホタル」や「空の  
かなたに」「ホタル帰る」の書籍等で紹介されている。

現在の富屋旅館

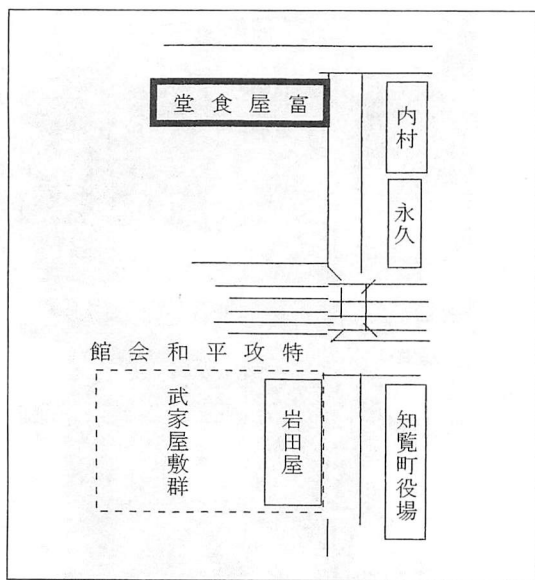


トメさんは戦後も特攻  
隊員のことを思い慰霊の  
ための観音堂建設に取り  
組み、昭和三十年念願の  
特攻観音堂を完成させた。  
昭和五十年特攻遺品会館  
が完成、昭和六十二年現  
在の特攻平和会館として  
リニューアルオープンし  
た。

トメさんは平成四年享年  
八十九歳で逝去した。

この知覧の基地を題材にした映画も数多く作成され  
人々の涙をさそった。昨年上映された「俺は君のために  
こそ死に行く」の映画は、特攻隊員と知覧高等女学校  
生（なでしこ部隊）の交流を通し、戦争の悲惨さ、戦争  
反対の意思を強く伝えている。

この碑の側には、神坂次郎文学碑「今日われ生きてあ  
り」や、映画ホタル制作スタッフの建立したホタル碑  
「燃えつきず 立ち寄る家の 今ありやなしや ホタルよ



ここに休んでください 降旗康夫 (H13・12建立) や、  
 知覧短歌会が建立した「帰るなき 機をあやつりて 征  
 きしはや 開聞よ母よ さらにさらば 鶴田正義」(S63・  
 10建立) 等の碑などが所狭しと置かれている。  
 トメさんの富屋食堂のような軍用旅館や軍用食堂は他  
 にもあった。

〈軍用旅館・軍用食堂〉

・ 永久旅館：永久橋の畔にあり。隊員と家族はここ  
 で別れを惜しんだ。

・ 内村旅館：隊員とと家族は別れを惜しんだ。

・ 富屋食堂：鳥浜トメさんが営む軍の指定食堂。

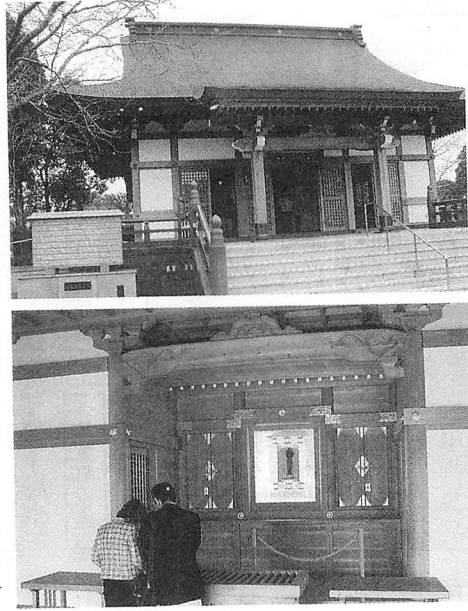
・ 岩田屋旅館：軍用旅館と軍用食堂を併設

特攻平和会館右手の特攻観音、各種の記念碑、寄進さ  
 れた灯籠、復元された三角兵舎などで往時の様子を垣間  
 見ることができる。



俺は君のためにこそ死にに征く碑

### ③特攻平和観音



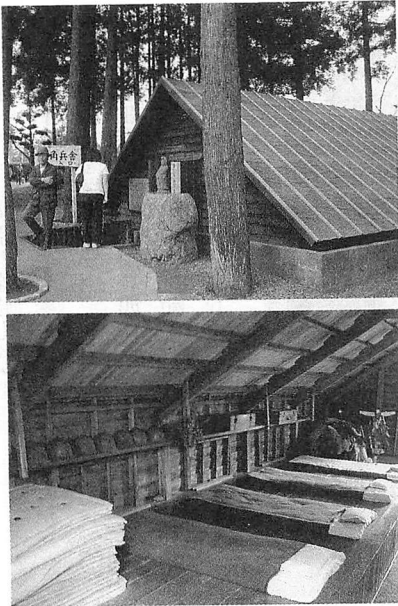
知覧特攻平和会館の左手には特攻出撃していった人々を祀った観音堂がある。この観音堂は昭和三十年九月二十八日に建立されたもので法隆寺の「夢違い観音像」を複製、本尊として招聘したものだ。本尊の大きさは五十四センチメートルの金銅仏で、胎内には特攻出撃した勇士千三十六柱の芳名が記された巻物が収められている。

また境内の左手にもその芳名を記した石碑も建っている（写真は特攻平和観音堂とその内部）。

### ④三角兵舎

この三角兵舎は、特攻隊員の宿舎であった。敵の目を欺くため松林の中に半地下壕を造り、屋根には杉の幼木をかぶせて擬装してある。各地から集まった隊員は、二三日後には沖繩の空に散華された。

出撃の前夜は、この兵舎で壮行会が催され、酒を酌み交わしながら隊歌を歌い、薄暗い裸電球の下で遺書を書き、また別れの手紙をしたためて出撃して征ったのだ。



しかしながら、この知覧で祀られている特別攻撃隊員は沖繩戦に参加し散華した陸軍特別攻撃隊だけである。



今時の戦いでは、この他に海軍特別攻撃隊員による特攻や特殊兵器（人間魚雷回天・震洋・桜花・海竜・蛟竜・特殊潜行艇等）による特攻、戦車特攻隊、空挺特攻隊等があったことも是非知っていただきたい。

すべての特攻による戦死者は六千名以上になると言える。

最後に多くの記念碑の中から一部を紹介する。

○神坂次郎文学碑



知 覧

薩南の涯の山のなかの  
静かな町。

と号（特攻）要員とよ  
ばれた若者や少年たち  
が、青春の最後の幾日  
かを遇した町。

祖国の難に一命を捧げ  
た隊員たちの特攻機が  
二百五十キロの爆弾を  
抱えてよるけるように  
飛び立っていった町。

そんな隊員や、これを  
取りまいた人びとの、  
さまざまな思いが置め  
られている町、知覧

「今日われ生きてあり」

神坂次郎

○知覧短歌会の歌碑

帰るなき

機をあやつりて

征きはや

開開よ 母よ

さらばさらば

鶴田正義



知覧短歌会の人々が建てた歌碑です。当時の人々の思いが如実に描かれています。

○ホタル碑

このホタル碑は、平成十三年に制作された映画「ホタル」の制作スタッフが建立したものである。

特攻要員として飛び立つ第一〇四振武隊陸軍軍曹、宮川三郎さんとトメさんの会話「死んだら また小母ちゃんのところへ帰ってきたい。おれホタルになって帰ってくるよ」や、特攻の夜、源氏ホタルが部屋に入ってきたなどのエピソードを中心に、特攻隊員とトメさん一家の出

会いを映画化したものである。

碑文には

「ホタル 燃え尽きず、立ち寄る家の

今ありやなしや ホタルよ ここに

休んでください 降旗康男」

の文字が刻まれている。



ホタル碑

等がある。

まだ、この他にも多くの慰霊碑や記念碑、平和の鐘、

この知覧特攻平和会館、観音堂に祀られているのは、

この知覧基地を出撃し、散華した陸軍特別攻撃隊の10  
36柱の人々である。

これらの人々の遺品、遺書、家族への思いなどを見  
るにつけ、私たち一人一人が平和の大切さ、戦争の愚か  
さを体感し、恒久平和に努めなければならぬ。ともす  
れば、「戦争反対」の一言で、六十有年前、特攻により、  
あるいは戦争の名のもとに散華していった若き人々の生  
き様まで抹殺する場合が見受けられる。

当時の若い人々の思いが何で合ったのか、どのような思  
いを持っていたのか考えてみてほしい。

六十有年たった現在もなお、世界各地では、まだテ  
ロ、民族紛争、宗教的対立等の名の下に数多くの戦争が  
起きている。

私は、島津氏の江戸末期から明治にかけての人々の思  
い、政治の姿を黎明期の数々の出来事、生活の様子。特  
攻で散っていった人々の思いと命の尊さ、平和の世に生  
活し、広々とした土地が使われないまま放置されている  
田畑。小じんまりした農家の一角に祀られている「田の  
神様」など人々の自然とのつながり、生き様を考えなが  
ら研修を終えた。